特集

禍（わざわい）の中で主を求める

「コロナと福音」

神の備えと計画を知る

Lightプロジェクト ディレクター

サックス 知子

PROFILE

さっくす・ともこ　信仰と仕事ミニストリーのLight プロジェクトの創設者、ディレクター。マーケティングで MBA(経営学修士)。約 30年、サラリーウーマンとして、日本、米国、中国、香港で働いた。1996年に米国でクリスチャンになる。日本と海外で「信仰と仕事」関係の学びとトレーニングを受け、現在、信仰と仕事トレーニングコース、ワークショップやセミナーを開催している。

信仰と仕事ミニストリー「Light プロジェクト」は、社会で働くクリスチャンが仕事を通してイエス・キリストの光(Light)を輝かすことができるように、励まし、訓練することを目的として、２０１７年11月に創設されました。これまで、東京、名古屋、関西へと活動の範囲も広がり、今年は少し積極的な計画を立てていました。しかし、2月16日に名古屋において信仰と仕事トレーニングコースのパーティーを行ったのを最後に、春に予定していた活動はほぼすべて中止となりました。祈りと話し合いのためのミーティングもＺｏｏｍミーティングとなり、この新型コロナウイルスの感染拡大の影響が私たちの計画や思惑とは全く違ったところに進んでいく様子を、ただ眺めていました。

しかし、私たちは、神の別の計画を知ることになりました。

実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

（エペソ2・10）

この新型コロナウイルスは、人々の仕事にも大きな影響を与えました。そうした混乱の中にあるビジネスパーソンの助けとなるために、Ｗｅｂを用いた無料セミナー「コロナと福音」を提供する機会が与えられたのです。私たちのホームページ「LIGHT PROJECT」では、「コロナと福音」というコーナーも設け、「コロナによる仕事の混乱―福音の希望の適用」というツールを紹介しています。このツールは、Global Faith & Work Initiative（ＧＦＷＩ）のエグゼクティブ・ディレクターのミッシー・ウォレス氏が今年の４月初めに作成したものです。ＧＦＷＩは、米国のリディーマー長老教会のティモシー・ケラー牧師が始めた教会開拓機関 Redeemer City to City の中にある、信仰と仕事部門です。私たちLightプロジェクトは、この信仰と仕事ネットワークに入っていて、世界の各地にある信仰と仕事ミニストリーと、活動や資料の共有をしています。ＧＦＷＩの許可を得て、Lightプロジェクトのチームが日本語に翻訳し、日本に適用できるように日本の状況などを盛り込んでいます。さらに、より多くの人たちに用いられることを願い、パートナーである City to City Japan と組んで、一般社会で働くクリスチャンだけでなく牧師や宣教師の方々にも参加を呼びかけました。また、このセミナーの参加者が、自分自身でも発表をしたり、スモールグループや職場で用いられるように、プレゼンテーション資料を配布し、ビデオにも録画しました。全容やこのセミナーのビデオ録画などは、ウェブサイトをご覧ください。

www.lightproject.jp

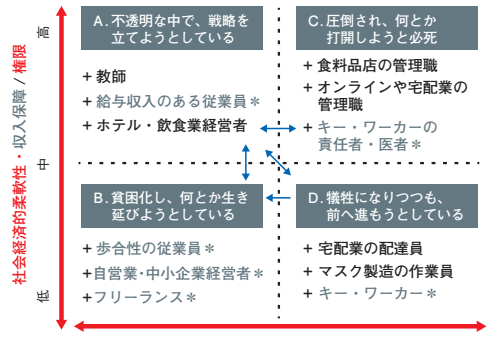
では、このツールの一部を紹介したいと思います。

さて、新型コロナウイルスによって、良くも悪くも人々の仕事に大きな影響を与えていますが、その混乱状況は、それぞれの仕事の形態や種類によって違うため、霊的や肉体的なニーズ、さらに、浮き彫りにされる誘惑も異なるという現状があります。また、福音の希望は皆に等しく与えられますが、ニーズや誘惑が異なるため、用い方が変わってきます。このような違いを自分自身のために理解することが必要であると共に、クリスチャンとして、周りの人々にどのように仕えたら良いのかを考えようというのがセミナー概要です。

まず、一人ひとりの状況をより簡単に理解するため、その状況を大まかに四分割したモデルを使います。横軸には、新型コロナウイルスによる仕事の変化を表し、左の方は仕事が減少してしまったり、無くなって失業している方々になります。反対に右の方は、仕事が増えて大変な方々です。そして縦軸には、仕事に対して、どれぐらいの権限や経済的ゆとり、また給与などの収入保障があるかどうかを表します。日本の場合は米国と違って急な解雇がほとんどないので、正社員の場合は雇用が守られ、収入の保証があります。そこで、縦軸の上の方に入ります。

また、状況が長引くと、会社員であっても業種によっては雇用がいつまで続くのか分からず、B区分への移行に不安を感じている人もいます。

図1 仕事の混乱への対応モデル



©Global Faith & Work Initiative 日本：Lightプロジェクト

このモデルの左上のA区分の方々は、不透明な状況の中で、どのように生き残るのか、戦略を立てようとしています。給与のある従業員や会社員、学校の教師、さらに牧師や宣教師がこの区分に入ります。また、ホテルや飲食業の経営者は、権限的にはこちらに入りますが、もし経営が悪化して倒産しそうになっている場合は、下のB区分に入るかもしれません。

セミナーで実際の状況を共有してもらったところ、学校の教師の多くはオンライン授業という新しい形式や授業の再開に伴う準備や実施のため、4月からは既に仕事量が急激に増えて、右側のC区分やD区分に移行して行きました。また、状況が長引くと、会社員であっても業種によっては雇用がいつまで続くのか分からず、B区分への移行に不安を感じている人もいます。反対に、そのような状況をも神の計画の一部だと受け入れている人もいます。

さらに、テレワークをしている人たちは、家族と一緒に過ごす時間が増えたり、いくぶん余裕のある仕事時間になり、以前より良いワーク・ライフバランスを楽しみ始めている人もいて、良い影響が見られます。同時に、仕事が減ったことにより、怠惰になったという悪い影響も出ているようです。

次にB区分ですが、仕事が減ったり無くなっていて、収入の保証が無い状況です。ここで保障や援助が無いと、お金が底をついていくのを見ながら、貧困化の中で何とか生き延びようとしています。歩合制の従業員、自営業や中小企業の経営者、フリーランスの方々がこちらに入ります。資金繰りの厳しい零細企業にとっては、政府からの支援が無い場合、倒産に至る可能性もあります。また、特に芸術関係のフリーランスの方々は、大規模なイベントやコンサートなどの再開の見通しが立たず、困窮している状況です。他にも、新卒で就職が決まっていたけれども、取り消されて、これから求人を探すのは難しい状況に直面している人もいます。もちろん経済的余裕は無いかと想像します。

右側のC区分は、今の状況に圧倒されつつも、何とか打開しようと必死の状況です。日本では食料品店の管理職、医師、役所の責任者や管理職の方々です。また、オンライン診療システムや電子契約サービス会社などの管理職たちは、突然の需要に対して残業続きで疲れています。

最後に、右下のD区分は、犠牲を払いつつも何とか前に進もうとしている状況です。彼らは人々の健康と

生活を守るために日々、自分を犠牲にして働いています。「キー・ワーカー」とも呼ばれますが、看護師、介護福祉士、スーパーの従業員などです。看護師や介護福祉士は、人々のために奉仕するという使命をしっかり持って働いています。しかし同僚の何人かは、その使命と新型コロナウイルスによる健康への恐怖との間で、大きな葛藤を抱えながら働いています。また、先のオンライン関係の会社のエンジニアや技術サポートスタッフは、膨大かつ緊急の仕事をこなす必要があり、深夜まで、あるいは徹夜で働いている人たちもいます。

こうして互いに自分の状況を紹介することで、お互いを理解する助けになるということが分かりました。それぞれの仕事の形態や種類によって状況が大きく違っていることが理解できたのではないでしょうか。

しかし、このような違った状況においても、不安や恐れを軽減するという共通の霊的ニーズがあります。特に、日本で最も求められているのは「安心・安全」なので、収束の見えない不安や、さらに悪い状況になるという恐れは、受け入れがたい感情へと発展します。そこで、この不安や恐れを正直に神の御許に持って行き、神が自分と共におられることを確認し、神にしっかりと信頼して立つことが必要になります。また、このような不安定で混乱している状況においても、神はすべてを支配しておられ、神が主権を持っているという事実を信じることが必要です。

しかしながら、誰しもプライドがあり、羞恥心が邪魔をして、神に叫ぶことが難しいかもしれません。特に、真面目なクリスチャンであればあるほど、神に自分の不安定な気持ちや怒りをぶつけて神を煩わせることは、気が進まないとか、罪悪感を持つ人もいるでしょう。しかし神は、私たちが子どものように心にあることを打ち明けてくれるのを喜んでくださいます。詩篇は、そんな葛藤をしている人の助けになるのではないでしょうか。ダビデと一緒になって、時には怒りをも含んだ心の底を神に訴え、叫んでみることが必要です。

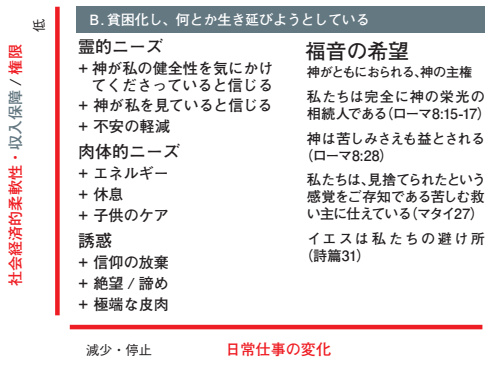
一方で、それぞれに違った霊的ニーズもあります。肉体的ニーズもそれぞれ違います。D区分の方々は、特に肉体的に大変です。例えば1週間に1日の休みがあったとしても、その休みを家族の世話や、掃除、洗濯などに費やしたなら、その日は休むことができません。そんな時に助けてくれる人やサービスがあったら、本当に嬉しいのではないでしょうか。キー・ワーカーの一人が、自分の部屋は物が散乱していて洗濯する時間もないので着る服がない、という状況を話してくれました。

そして、このような混乱の中では、明暗のどちらも明らかになり、誘惑にもさらされます。例えば、AとC区分の責任や権限を持つ人にとって、「何とかしないといけない」というプレッシャーから、自分だけに頼り、「自分が神」になってしまう恐れがあります。さらに、自分の目的のため周りの人を犠牲にしてしまい、その計画が成功すればプライドに、失敗すれば絶望に変わります。BとD区分は、このような状況を許される神を信じられなくなるかもしれません。さらに、「どうせ私なんか」と、自分には価値がないのだとか、気にかけてもらえないのだという、極端な皮肉や自己憐憫が現れる可能性もあります。

このような異なった状況、霊的ニーズ、肉体的ニーズ、および誘惑に対し、聖書が語る福音の希望にはどのようなものがあるのでしょうか。霊的に一番大変なB区分を見てみましょう(図2)。特に、「神が私の健全性を気にかけてくださっていると信じる」という霊的ニーズと、「信仰の放棄」などの誘惑があり、それに対応する福音の希望です。私たち自身が神の栄光の相続人であるという希望、そして救い主ご自身が苦しみを受けられた方なので、いま私たちが直面している問題や状況を理解しておられ、神は決して私たちをお見捨てにならないことが福音の希望です。それは、ローマ人への手紙8章15−17節と、マタイの福音書27章の十字架の苦しみから分かります。さらにローマ人への手紙8章28節では、神はそのような苦しみをも私たちの益としてくださることが分かります。そして詩篇31篇から、私たちの拠りどころである神に助けを叫ぶことができるのを知ることができます。

セミナーでは、ここで私の個人的な失業の体験をお話しします。私はビジネスウーマンとして30年ぐらい働き、その間に三回ほど失業しました。失業期間は毎回、1年に及びました。失業中は大変で、大きな不安の中にありました。しかし、振り返ってみると、良い事もたくさんありました。一回目の失業で、私は米国でクリスチャンになり、夫とも出会いました。二回目の失業は、何か

図2　B区分



©Global Faith & Work Initiative　日本: Lightプロジェクト

神の計画があることが分かっていました。仕事が偶像になっていた私は、人生の優先順位の第一が神であることを認めるようになりました。これは、実際に仕事を失い、神に心を変えてもらわない限り、自分からは変えられなかったと思います。そして三回目の失業は、ミッションを変えるようにとの導きを受け、今のミニストリーを立ち上げました。いずれの失業期間も、特定の会社に属していなかったので、自由にいろんな人に会って話すことができました。この失業時期は、最も多くの人と交流を持てた期間でした。問題や苦しみを、神が益に変えてくださったのです。と言っても、B区分の方に対応するには、注意が必要です。これをそのままお話しすると、傷つけてしまう恐れがあります。

こうして、それぞれの現状を理解した上で、周りの人たちに仕え、神の愛を表現していくわけですが、幾つかの注意点もあります。まずは、言葉で伝える前に良い信頼関係を築くことが大切です。そして、相手の状況をよく理解すること。実際、一人ひとりの状況は、説明した例とは異なるかもしれません。相手の話をじっくりと傾聴し、共感することも必要です。特にB、C、D区分の方々への対応に注意してください。突然の変化と不安な状況に対して、人は自分の感情を理解し、処理するのに時間がかかるものです。それは数週間の場合もあるし、数か月かかる場合もあります。グレンジャー・E・ウェストバーク著『すばらしい悲しみ』(地引網出版)では、今回のような大きな変化を「悲しみ」として体験し、「ショック状態に陥る」という第一段階から、第二段階で「感情を表現する」ことができるようになり、「現実を受け入れられるようになる」という第十段階までの過程を説明しています。また、一人ひとりの状況が違うこともあり、対応を変える必要があるのが、これまでの説明で理解できるのではないでしょうか。詩篇を勧めた方が良い場合もあれば、重症の人にはカウンセリングを勧めた方が良い場合もあります。反対に、A区分の方の中には、すでに良い影響を受けておられ、神に感謝するのが良いかもしれません。

次に、組織として、また教会として周りの人たちを支援していく前に、組織の文化や欠陥などを検証する必要もあります。例えば、日本語が話せない外国人を支援したいと思っても、その言語を話す人がいなければ難しいでしょう。また、文化の壁が高すぎて、助けになるより障害を作る可能性の方が高いかもしれません。もちろん、経済的な援助はできます。

こうして、多様な人々が直面する様々な混乱した状況を分析することで、異なる霊的・肉体的なニーズ、誘惑の増大について、より深い理解が得られます。私たちが学んだことを踏まえて、福音をどのように敏感に、そして効果的に言葉と行動で表現することができるかについて考え始めることができます。

セミナー参加者には、このツールを用いて小グループで語り合った人もいます。新型コロナウイルスの影響が強い現在だけでなく、調整を加えれば福音を伝えようとする際に常に使えるツールだとの感想ももらいました。

また、このセミナーの助けとなるような良い資料もあります。カウンセリングのためにはポール・D・トリップ著『互いに助け合うために』という良書があり、キリスト聖書学園から無料配布されています。一昨年には著者のトリップ氏のカンファレンスも開かれ、その様子はCGNTVで視聴することができます。他にも、昨年には「聴くドラマ聖書」や「職場のアルファコース」などがリリースされています。最近では、知人のデイビッド・ルー氏が書いた『日本宣教を阻む5つの障壁』(いのちのことば社)という本も出版されました。

神は、この世界がどんな時代になったとしても、その働きを進め、またそのための準備をしておられます。今回の新型コロナウイルスの感染拡大という事態の中で、私たちはそのことを体験して驚いています。インターネットを通して行われた「コロナと福音」セミナーには150人近くが参加し、海外からの参加者もありました。この神の備えとご計画に沿って、周りの人々の思いに耳を傾け、仕え、神の愛を表現していくことにより、福音がさらに拡がることを期待しています。舟

こうして、多様な人々が直面する様々な混乱した状況を分析することで、異なる霊的・肉体的なニーズ、誘惑の増大について、より深い理解が得られます。